

特別委員会

行政

委託化・指定管理等の成果 どう検証 直営との経費を比較 財政効果を試算

行財政改革

金子 正議員(みらい)
行財政改革の一環として、本市は、学校給食の委託化、保育園の指定管理者への移行等を進め、また、ICT(情報通信技術)も導入し活用している。これらの成果をどう検証しているのか。
答 財政効果の視点から、直営との経費を比較すると、委託化した学校給食調理業務では、11年間で約29億2千万円を、指定管理者制度に移行した保育園では、6年間で約4億6千万円を削減したと試算している。また、施設予約システムの導入によって、公民館やスポーツ施設等の予約手続きの約60%がオンライン予約となり、内部事務の効率化等が実現されている。

東京ベイ・浦安市川医療センター

全面開業 早期化の可能性は 計画の前倒しに向け協議したい

岩井清郎議員(みらい)
東京ベイ・浦安市川医療センターは、民設民営という形で後継法人も決定し、平成24年4月の新病院開業まで約半年となった。病床数は開業時から2年かけて段階的に増やすとのことだが、早期にフル稼働できないか。また、災害時の機能確保策について問う。

答 新病院の工事はほぼ予定通り進んでいる。医師の採用はほぼ見通しがついており、看護師他医療スタッフの確保に取り組んでいる。フル稼働の前倒しについては関係者と協議したい。災害に対しては、免震構造自家発電装置、近接地の職員宿舎建設など徹底した対策を行う計画である。

市川市霊園

新規墓地整備計画 市の考えは 平成26年度募集目途に造成進める

加藤武史議員(自由クラブ)
私は議会で度々、年1回の抽選に何度もはずれ、故土を埋葬できずにいる多くの市民のために、新規墓地造成や抽選方法、当選確率、墓地返還に対する補助金の改善を要望してきた。

平成26年度の募集を目的に、23年度から測量、地質調査に着手し、24年度に設計、25年度から造成工事を実施する計画である。市民の要望の多い2・5畝を1000基造成する計画だが、24年度設計委託で基数はほぼ確定することとなる。

東京外郭環状道路特別委員会

国などからの説明に対し各委員が質疑

東京外郭環状道路特別委員会を平成23年8月10日に開催し、国などの担当者を招いて、外環道路に関する審査を行いました。
平成23年7月末現在の用地取得率(市川市内約98%)などの説明を受けた後、各委員から、今後の用地取得対応を始め、関連都市計画道路の整備見直し、先行整備区間の供用に伴う通学路の安全対策などについて質疑を行いました。

して土地収用法に基づく手続きを進めること、関連する都市計画道路については、関係機関等と十分に協議・調整を図っていくこと、また通学路については、道路管理者である市川市、松戸市、及び県公安委員会と調整し、現地確認の上、必要な安全対策を検討していく等の答弁がなされました。

この他、これまでの委員会審議に引き続き、先行整備地区の騒音・振動対策や地域分断対策について、議論がなされました。

行徳臨海部特別委員会

塩浜2丁目護岸などを現地視察

行徳臨海部特別委員会は平成23年8月9日、地域の現状を把握するため、本行徳・下妙典の地域コミュニティゾーン整備事業地区や塩浜1・2丁目の護岸、市川漁港等を視察しました。

また、3月11日に発生した東日本大震災により被害を受けた、ハイタウン塩浜地区内外の塩浜4丁目地先の市道の被害状況も確認し、市の担当者から被害の状況や復旧方法、今後の事業計画などについて、説明を受けました。



塩浜2丁目護岸を視察する委員

行政

公的不動産の利活用

長期的・全体的な計画が必要 基本方針を策定して運用する

宮本 均議員(公明党)
公的不動産の利活用には、情報公開が必要と考えるが、市の計画や方針はどのようになっているのか。答 公的不動産については、

短期、中期、長期でそれぞれの特性に応じた全体的な利活用の基本方針を策定し、各部署に対して方針に沿った運用を徹底させ、そして、各施設の更なる有効活用や資産価値の拡充を図るためのアセットマネジメント(効率的な資産管理)へと展開させていく必要があると考えている。

駒形バス停前交差点の安全対策

信号機を設置できないか 暫定整備での設置を警察署に打診

大場 諭議員(公明党)
大町の駒形バス停前交差点は、車からの見通しが悪く、毎年のように出会い頭での大きな事故が発生し、

整備を進めている千葉県と交差点改良の調整を進めているが、改良に必要な用地の取得時期が不確定であるため、暫定整備での信号機の設置を、市川警察署に打診している。市としても、整備計画通りに交差点改良が整い、信号機が設置できるよう、引き続き、用地交渉を進めていきたい。

市のマスコットキャラクター

更なる活用で効果的な情報発信を 反響呼ぶ工夫を新たな発想で研究

越川雅史議員(緑風会)
市の施策には様々なキャラクターが利用されているが、その選定や利用方法を見直すことで、より効果的な情報発信、広報活動ができるのではないか。例えば、市川の梨や海苔をPRするキャラクターを公募して作品を市内施設に展示したり、人気投票等を行えば盛り上がるのではなかろうか。

答 市の施策の周知・啓発にキャラクターを用いることは、世代を超えて情報が伝わり大きな効果が期待できると考える。多くの市民に受け入れてもらうには、市民の反響を呼び起こす工夫も大切であり、今後、新たな発想と視点でキャラクターの活用を研究していく。

農業振興

農業継続をどう支援する 後継者問題に取り組んでいく

竹内清海議員(緑風会)
農家の高齢化や核家族化等により農業の担い手が不足し、耕作放棄地が増え続けている。耕作放棄地が増

えると、農産物の生産だけでなく、景観の保全や災害時の避難場所などの機能を持つ農地が確保できなくなってしまう。農業を継続させるため、市としてどう支援していくのか。
答 市では、農業に関心のある市民を募集し、必要な栽培技術などを指導し、農作業の支援ができる農業ボランティアを育成したいと考えている。また、独身農業者の婚活も支援するなど、高齢化や核家族化した農家の後継者問題に取り組んでいきたい。